

第16回天台声明を聴く会（通算第36回）

- ・日時 令和8年6月21日（日）午後5時開式
- ・場所 桃山善光寺 雨宝山 龍雲寺本堂
- ・住所 京都市伏見区桃山毛利長門東町37
- ・電話 075-611-4854
- ・e-meil momoyamazenkoji@outlook.jp
- ・最寄り駅からのアクセス
JR奈良線 桃山駅から10分
京阪本線 伏見桃山駅から20分
近鉄京都線 桃山御陵前駅から20分

駐車場はございません。公共交通機関を利用してお越しください。

京都魚山声明研究会差定（配役）

導師・表白・廻向	松林院	須川 實 治
唄師・伽陀師・舍利伽陀後曲	鞍馬寺	信 樂 香 爾
始経・銅鑊・後唄	法輪院	本 郷 泉 観
舍利讚嘆句頭師上段	戒光院	高 山 良 彦
伽陀師・舍利伽陀前曲	恵光院	清 原 徹 雄
散華師・舍利讚嘆句頭師後段	東陽院	齋 藤 良 成
頌讚	龍雲寺	本 多 寂 信
舍利讚嘆句頭師中段	寶藏寺	黒 崎 寂 深
合殺	二尊院	羽 生 田 光 昭
四智讚・鉢	歡喜院	信 樂 香 之

天台声明を聴く会（大原勝林院第20＋伏見桃山 龍雲寺第16＝第36開催）ご挨拶

私の中学の、担任の先生であった天納傳中先生（当時叡山学院学監）の研究課題「声明」を聴かせて欲しいとお願いしたことから、昭和62年4月（1987）に、先生とお弟子さんたち「大原魚山声明研究会」と、私たち「天台声明を聴く会（傳中先生命名）」との両輪にて、大原勝林院本堂で声明の習礼風景として第1回の声明公演が歴史的意義の上に開催されました。それは仏教儀式の中にしかなかった「声明」を一般の人たちが視聴できる第一歩でした。その後第20回まで毎年同院本堂で開催する中で、年ごとに「声明」の認知度が高まるとともにファンも増えてまいりました。残念な事ながら、先生そして声明後継者の久和師が相続いて逝去され、大原勝林院本堂での継続開催は諦めざるを得なくなりました。

そんな中、新たな出会いが、この伏見の地で先生のご意思を継承され「京都魚山声明研究会」として本年で第16回目を迎えられることを心よりお喜び申し上げます。

代 表 田村佐起三

サポーター「天台声明を聴く会」（ボランティア護持者）

京都魚山声明研究会

第16回天台声明を聴く会（通算第36回）

令和8年6月21日（日）

午後5時開式

（於）桃山善光寺 雨宝山 龍雲寺本堂

本日は、「天台声明を聴く会」にお越しいただき、誠にありがとうございます。今回お唱えする『舍利供養』についてご紹介いたします。

舍利は仏教の開祖、釈迦の遺骨のことで、舍利は釈迦をしのぶよすがとして篤く信仰されました。

釈迦は、インドのクシナガラで80年におよぶ偉大な生涯を閉じました。弟子たちは亡きがらを荼毘にふし、舍利を釈迦をしのぶよすがとして礼拝しました。舍利は美しく飾られた容器に納められ、ストウーパ（塔）に埋納されました。舍利への信仰は仏教のさまざまな信仰のなかでも、もっとも古いもののひとつです。

仏教の伝播にともない、舍利信仰は中国、韓国、日本へと伝わりました。インドの伝統にのっとり、日本でも古代寺院では塔に舍利が安置されましたが、平安時代のはじめに密教が伝えられ、舍利信仰に大きな転機が訪れました。修法の本尊に舍利をむかえ、国家安泰、玉体安穩、五穀豊穰などが祈願されました。舍利は人々に現世利益をもたらす靈験の強い存在と認識されるようになったのです。

やがて、舍利はあらゆる願いをかなえる不思議な玉、如意宝珠（摩尼宝珠）と見なされるようになりました。舍利の靈験の強さが如意宝珠と一体であるという発想を生んだのでしょう。宝珠は如意輪観音が手に持っていたり、愛染明王像の宝瓶座の中につままっているなど、様々なホトケと密接な関連を有しています。宝珠との結びつきにより、舍利はこのようなホトケたちとも関連を深め、日本の舍利信仰は独自の展開を見せるようになりました。

今回お唱えする、第三世座主慈覚大師円仁御作の舍利讚嘆会式（略 舍利会）は宝暦四年（一七五四）三月十九日、魚山宝泉坊嶺雄が記された「延暦寺舍利三段讚嘆」を基に復刻させていただいた一部です。

慈覚大師、慈恵大師、院源座主が、末法思想の浸透と舍利の十徳のひとつ、死後諸天に生まれることができるという徳目とを結びつけ、釈迦の救済のない現世を生きる人々にとって来世に浄土に往生したいという阿弥陀信仰をより確実にするため老若男女貴賤を問わずに舍利讚嘆会式を通じて信仰を涵養されたことに鑑みて、諸師の願いが時空を超えて蘇り、幾久しく舍利讚嘆会式が奉修され釈迦の教えが現世に敷衍されんことを願います。